

## 1. 背景

西日本学生体操選手権大会の参加要件は各支部大会の出場が唯一であった。その結果、男子の出場選手数が200名を超えるようになった。参加選手数が180名を超えると、団体班では7組、個人班では6名を超える組を作らざるを得なくなる。例えば、個人班の一組でも7名になれば、たった一名増でも6種目に要する時間は約30分多くなる。これは一班7チーム編成で休憩を設けた場合と同じ結果になる。2017年は21チーム、個人出場75名、計201名が登録した。登録終了まで試合時間の調整もままならず、締め切りすぎでの申請も多く班編成がかなり遅れる。適正人数の180名を超えて競技時間が延びることは、多くの点でマイナスになる。選手は緊張感の欠如、審判員には疲労過多が生じる。また、運営側は準備に予想以上の時間を要することになる。従って、準備段階も含めた円滑な競技運営を図ろうとすれば、参加総数を180名に制限せざるを得ない。

## 2. 参加選手を180名に削減する案

チーム出場数と個人出場数に分けて考える。従来の班編成では、団体3班、個人2班であった。これを踏襲すると、

① 団体出場数は18チーム（大学）である。

18大学を3つの支部に配分する際、過去5年間（2013~2017）の平均出場大学数（九州4 関西9 東海・北信越6）計19大学を参考にし、1大学の減を関西と東海北信越の二つの支部に充て、九州支部には1部校が例年多いことを考慮して以下の通りとする。団体18大学の出場数はそれぞれ6名だから計108名となる。

2019（東・北） 九州4 関西8 東海・北信越6 計18大学

2020（関西） 九州4 関西9 東海・北信越5 計18大学

2021（九州） 九州5 関西8 東海・北信越5 計18大学

180名から108名を除くと、残り（72名）が個人出場となる。

② 個人出場選手は72名。

2019年度1部校は九州3 関西1 東海・北信越1でそれぞれ個人枠4名、2部校の個人枠2名、という従来通りにすれば、1部校20名、2部校26名となり、残り26名が団体出場校以外からの個人出場数となる。2018年の個人出場者をみると団体出場校以外では九州0、関西8、東海北信越4となっている。この比率は当然毎年変動するが、九州支部ではこれまで0が多い。この点を踏まえ、少なくとも各支部に一組分の6名を振り分け（計18名）、残り8名を関西と東海北信越に比例配分すると関西5名と東海北信越3名となる。この結果、**団体出場校以外の個人出場枠について2019年度は**

九州6名、関西11名、東海北信越9名となる。

## 3. 運用に関して

①各支部の大会終了を直ちに通過者会議において西日本出場を確認し、開始支部に知らせる。その後各大学、個人でエントリーを行う。

②もし、各支部で割り当てられた数（チーム、個人）を満たすことができない場合、その数を開催支部に譲渡する。開催支部で満たすことができない場合には、他の二つの支部に割り振る。

③一部校の入れ替えがあっても各支部の団体数の割当ては変更せずに、個人出場枠で調整する。

2019 西日本学生体操選手権大会 男子出場枠

| 九州     |      | 関西     |      | 東海北信越  |      |
|--------|------|--------|------|--------|------|
| 鹿屋体育大  | 10 名 | 大阪体育大  | 10 名 | 静岡産業大  | 10 名 |
| 福岡大    | 10   | 2 部校 7 | 56   | 2 部校 5 | 40   |
| 九州共立大  | 10   | 個人出場   | 11   | 個人出場   | 9    |
| 2 部校 1 | 8    |        | 計 77 |        | 計 59 |
| 個人出場   | 6    |        |      |        |      |
|        | 計 44 |        |      |        |      |